

考えて、*Artemisia laci-hankae* Kitagawa と名づけたが、遂にその標本は日本へ持帰ることが出来なかった。しかし、“Flora URSS”の第 26 巻に挙げてある *A. macilenta* (Maximowicz) Krascheninnikov がこれと同一種であることを知ったので、ここに記して置く。

*Artemisia macilenta* (Maximowicz) Krascheninnikov in Mat. Hist. & Veg. URSS 2: 156 (in nota) (1946).

*A. campestris* Linnaeus var. *macilenta* Maximowicz, Prim. Fl. Amur. 158 (1859).

*A. capillaris* Thunberg var. *simplex* Maximowicz in Bull. Acad. Sci. St.-Pét. 8: 524 (1872).

*A. desertorum* Sprengel var. *macilenta* (Maximowicz) Pampanini in Nuov. Giorn. Bot. Ital. n. s. 34: 651 (1927).

Nom. Jap. Kenasi-kawara-yomogi (nov.).

Distr. Amur, Ussuri, Manshuria bor.-or. & Uda.

### ○ムラサキツユクサの開花温度について (柳沢新一) Shinichi YANAGISAWA: On the temperature for flowering in *Tradescantia*

ムラサキツユクサは一般の傾光植物が快晴・晴・薄曇りに開き、曇天・雨天にとじているのと異り、曇天・雨天にも開くことを先に報告したが (本誌 45: 232), 開花温度についても異っている。即ち他の傾光植物は低温の日にとじ、高温の日に開くものであるが、日変でも、朝夕の低い温度のときはとじており、日中温度の高いとき開いているのである。ところが本種のみは、高温の日 (夏日 25°C より以上の日) に半開又はとじており、それ以下の低温のときに開いているのである。

これは他の傾光植物と全く相反する傾向であり、雨天、低温、夜に開く性質のあるオシロイバナに似ていることになる。然し夜はとじるからこれとも異っている。もとより非傾光植物では、高・低温に関係なく、夜も同様に開いているものとは勿論異なるものであることは当然である。これからムラサキツユクサは夏の涼しいときに開いている特徴をもち、特別な傾光植物であることになり、曇天・雨天にも開くと云うことは、低温に開くことにも関係するのである。

(東京都豊島区 XXXXXXXXXX)